

日 時：令和 4年 4月 29日（金）13：30～15：50

場 所：オンライン開催

出席者：綾部園子会長，新井映子筆頭副会長，高村仁知副会長，平尾和子副会長，中村恵子，佐藤靖子，阿久澤さゆり，飯田文子，小西史子，名倉秀子，磯部由香，和泉秀彦，坂本薫，菊崎泰枝，五島淑子，岡本洋子，久木野睦子，三成由美，宮藤章，三宅裕子（以上理事20名）
藤井恵子，峯木眞知子（以上監事2名）

欠席者：数野千恵子，升井洋至，郡田美樹，生田目早苗（以上理事4名）

本日の理事会は，定款第33条理事の過半数の出席（理事24名中出席20名，欠席4名）を満たし成立。

【配付資料】

資料1：一般社団法人日本調理科学会 2021年度第3回理事会議事録（案）

資料2：2021年度 伝え継ぐ日本の家庭料理研究委員会の活動報告（案）

資料3：「多様な調理法と家庭料理の伝承」研究委員会報告

資料4：一般社団法人日本調理科学会 2022-2023年度役員候補者名簿及び代議員名簿

資料5：2021年度事業報告

資料6：2021年度収支決算（貸借対照表）

資料7：2021年度収支決算（正味財産増減計算書）

資料8：監査報告書

資料9：2022年度（社）日本調理科学会賞受賞候補者案

資料10：2021年度支部事業報告

資料11：2021年度支部決算報告

資料12：2022年度支部事業計画（案）

資料13：2022年度支部予算案

資料14：2022年度代議員総会及び講演会の件

資料15：2022年度大会の件

資料16：「多様な調理法と家庭料理の伝承」の実験チームの進め方について

1. 議長，議事録作成人，署名人選出

前例により，議長は綾部会長，議事録作成人は小西理事，議事録署名人は綾部会長，新井筆頭副会長，峯木監事，藤井監事とする。

2. 前回議事録確認

2021年度第3回理事会議事録（案）（資料1）が承認された。

3. 議事

【報告事項】

（1）業務執行理事からの業務執行状況に関する報告

綾部会長より，学会全般の会長の職務を執行してきたとの報告があり，新井筆頭副会長は庶務・編集担当として，高村副会長は情報管理・会計担当として，平尾副会長は企画・広報担当及び家庭料理委員会の担当として，会長を補佐し職務を執行してきたとの報告があった。

（2）常置委員会からの報告（資料5）

1) 編集委員会

新井筆頭副会長より，日本調理科学会誌を年6回，各1600部の発行を行った旨報告があった。論文審査状況は，2019年，2020年に比べて却下数は減ったが，投稿数が減少しつつあると報告された。これにはコロナ，研究環境の変化などの影響が考えられ，次年度の投稿を期待しているとのことであった。学会誌は発行後，2週間以内に電子版をJ-STAGEに公開した，投稿規定などの見直しを行ったとの報告がなされた。

2) 情報管理委員会

高村副会長より、ホームページの管理やメール・ニュース配信、アドレス更新、転載申請に対する許諾の判断を行った旨報告があった。

(3)特別委員会からの報告

1) 刊行委員会

綾部会長より、クッカリサイエンスシリーズ掲載について、長尾先生にご執筆いただいた本が近いうちに刊行される予定であるとの報告があった。クッカリサイエンスシリーズに執筆をお願いしたいが、その際は、一般向けに分かりやすく書いてほしい旨依頼があった。

2) 規程委員会

綾部会長より、学会の規定全般を見直したが、修正はなかった報告があった。

(4)研究委員会からの報告

1) 2021年度 伝え継ぐ 日本の家庭料理研究委員会の活動報告

平尾委員長より資料2に基づき、活動報告の説明があった。ほとんどの内容は前回の理事会で話したが、「追加調査を含む投稿論文内での倫理審査及び倫理的配慮に関する記述について」は進展があったということで、次のような報告があった。編集委員会で倫理審査を行う予定の2025年までは、家庭料理Webサイト家庭料理研究委員会の頁から、倫理的配慮の同意書様式と確認書様式をダウンロードして投稿できるようにしている。確認書チェックリストについても編集委員会EM内にアップロードし、特別枠(2023年3月まで)と一般枠で研究者が追加投稿しやすい環境を整備するよう配慮した。また、口頭で、次のような報告があった。①3月中旬、2022年度の大会に参加するか否か、全国アンケート調査を行った。その結果、39都道府県から参加意向があったが、8県未回答であった。②昨年度の東京大会で行われた検討会の4つのテーマについて全国配信した。その中で、2023年3月末、家庭料理研究委員会を終了するにあたり、総まとめ報告書のフォーマットと記載例、文献記載一覧フォーマットを委員全員に対して配信した。③家庭料理研究委員会のなかに論文審査委員会を計画中であるが、編集委員会からの依頼によって審議を継続する予定である。

2) 災害時メニュー開発に関する研究委員会

綾部会長から、前回と同様である旨報告があった。

3) 「多様な調理法と家庭料理の伝承」研究委員会報告

資料3に基づき、綾部研究委員会委員長から、これまでの経緯、概要説明があり、研究期間、目的、研究組織、調査チームの進捗状況が報告された。また、実験チームの進め方、今後の日程についても報告され、学会誌55巻第2号で再度新特別研究の参加メンバーを募集中であるとの報告がなされた。

(5)選挙管理委員会からの報告

資料4に基づき、次期役員候補として、会長 綾部園子氏、筆頭副会長 新井映子氏、副会長 真部真里子氏、平尾和子氏、各支部の理事20名、監事 飯田文子氏、高村仁知氏が報告された。

【審議事項】

(1)新入会員承認について

綾部会長より、回収資料に基づき、令和4年1月21日～令和4年4月25日の新入会員(正会員20名、学生会員7名、団体会員2団体)について説明があり、承認された。

(2)2021年度事業報告承認について

資料5に基づき、2021年度事業報告が提案され、審議を行った。庶務関係は新井筆頭副会長、企画・広報関係は平尾副会長から説明がなされた。庶務関係では、会員数の状況が報告され、会員数総数はおおむね昨年度と同様であることが報告された。また、代議員会及び年次大会開催の報告があり、日本調理科学会創立50周年記念出版事業の継続実施、研究奨励及び研究業績などの表彰、会議の開催についても報告されて承認された。企画・広報関係では、年次大会を開催、鈴木徹氏、高村仁知氏による講演会、新企画「多様な調理法と家庭料理の伝承」の設定・経過と進捗状況についての報告があった。研究委員会関係では、綾部会長から、災

害時メニュー開発に関する研究委員会がデモ調理の実施を見送ったこと、平尾副会長から次世代に伝え継ぐ日本の家庭料理研究委員会の活動について、CDを作成して配付したこと、学会ホームページ上に家庭料理ウェブサイト을設けて公開したことが報告された。刊行委員会については、綾部会長より、クッカリーサイエンスシリーズの刊行を継続することが報告された。

(3)2021年度貸借対照表承認について

高村副会長より、資料6に基づき、令和4年3月31日現在の貸借対照表について説明がなされた。流動資産である現金預金が前年度から2,290,060円増額となり、負債及び正味財産合計が2,168,519円増加したことが、報告されて承認された。

(4)正味財産増減計算書承認について

高村副会長より、資料7に基づき、令和3年4月1日から令和4年3月31日までの正味財産増減計算書について説明があった。前年度と比較して、受け取り会費の増額、学会掲載論文数減による著者負担金が減ったことによる受取著者負担金の減額、年次大会収益の増額、受け取り補助金の減額、50周年記念刊行著作経費の減額等により、経常収益合計が減少した。経常費用として、事業費の減額、管理費の増額等が挙げられ、経常費用合計が昨年度より減少した。その結果、正味財産期末残高は昨年度より増加したことが報告された。

(5)監査報告について

峯木監事より、資料8に基づき、事業報告書、計算書類及びその附属明細書等は適正に処理されている旨の監査報告がなされた。

以上(1)から(5)、2021年度事業報告、貸借対照表、正味財産増減計算書、監査報告について承認され、かつ代議員総会に提案することが満場一致で承認された。

(6)2022年度学会賞受賞候補者承認について

新井筆頭副会長により、資料9に基づき、学会賞受賞候補者1名〔坂本薫氏（兵庫県立大学）〕、奨励賞受賞候補者1名〔露久保美夏氏（東洋大学）〕、功労賞受賞候補者4名〔長沼誠子氏（東北・北海道支部、元秋田大学）、阿部芳子氏（関東支部、元相模女子大学）、石田裕氏（関東支部、元東京農業大学短期大学部）及び加藤みゆき氏（中国・四国支部、元香川大学）〕の選考過程について説明があり、審議の上、承認された。

(7)2021年度支部事業報告及び決算案承認について

中村東北・北海道支部長、飯田関東支部長、磯部東海・北陸支部長、坂本近畿支部長、五島中国・四国支部長、久木野九州支部長より、資料10に基づき、各支部事業報告、つづいて資料11に基づき、決算案について説明があり、審議の上、承認された。

(8)2022年度支部事業計画及び予算案承認について

各支部より、資料12に基づき、各支部事業計画、つづいて資料13に基づき予算案について提案があり、審議した。審議の上、承認された。

(9)2022年度代議員総会及び講演会について

平尾副会長により、資料14に基づき、代議員総会を6月5日(日)にZOOMミーティングで行う旨の提案があり、詳細なスケジュール、議題などについて提案があった。また、講演会はZOOMウェビナー方式で開催され、そのテーマ、演者（(株)エディオンの商品開発室長和田隆弘氏、兵庫県立大学吉村美紀氏）が紹介され、承認された。講演会は申し込みが必要であるため、出席者に対し、講演会に申し込んで欲しい旨の依頼があった。

(10)2022年度大会について

1)大会について

坂本近畿支部長（2022年度大会実行委員長）より、資料15に基づき、ハイブリッド方式（ハイフレックス方式）で大会を実施する計画であることが提案され、審議を行った。年次大会で懇親会が行われなかった2020年度及び2021年度の学会賞3賞受賞者（計13名）を今年度の懇親会に招待することが、審議されて承認された。

大会のポスター・チラシについて、6月に学会誌に掲載される学会の案内について、説明がなされた。開催方式についてはコロナの感染状況を検討し、7月1日、学会大会ホームページにてハイフレックス方式で行う

か完全オンラインにするかを周知することが報告された。オンラインになった場合、口頭発表は動画登録を依頼し、配信することが報告された。若手研究者発表奨励賞について、質疑応答をズームにより実施し、質疑応答を含めた評価を行うこととした。日程と会場についての説明、託児所希望者への補助、宿泊の補助など詳細について、学会案内に掲載したと報告された。

(11)2023年度大会について

五島中国・四国支部長より 9月9日、10日に県立広島大学で開催することが報告され、承認された。

(11) 多様な調理法と家庭料理の伝承研究委員会について

綾部委員長より、資料16に基づき、「多様な調理法と家庭料理の伝承」の実験チームの進め方について報告があった。実験実施に際しての取り決めについて、1) 秘密保持の確保について、2) 研究経費についての問題点が説明された。研究費については、学会からの研究補助費について説明がなされ、学会報告書作成事務費、大会参加費、論文掲載料などを学会から補助をすることが提案された。研究テーマについては個人テーマと共通テーマについての説明があり、承認された。

中国・四国支部の岡本理事から、実験途中での取り下げ及び途中参加してよいかとの質問があった。平尾副会長から、実験運営委員会が組織されているので、そこでまとめて審議したらどうかという提案があり、詳細については実験運営委員会で検討することになった。

【その他】

(1)withコロナの調理学実習に関するアンケートについて

2021年前期・後期、2022年前期の調理実習の状況について、アンケート調査をGoogleフォームによってweb調査すること、その内容等についての説明・依頼が行われた。

(2)次回理事会は、2022年6月5日（日）13：15～14：15、オンラインにて新役員により実施することとした。

議事録署名人	会長	綾部 園子	印
	筆頭副会長	新井 映子	印
	監事	峯木 真知子	印
	監事	藤井 恵子	印